



「サンマの力」

校長 三浦 伸之

突然ですが、みなさんは今年のサンマをもう召し上がりましたか？今年は獲れすぎているため、13年ぶりに一時休漁をするくらいの豊漁のようです。私も先日食べましたが、30センチ以上の大きさで、肉厚で脂ものっていて、ここ数年で食べた中では一番「うまい！」と感じました。実は私、子供の頃、鮭以外の魚があまり好きではありませんでした。小学生の時に「ドカベン」という野球マンガを読んでいると、「岩鬼」という金持ちの登場人物が主人公の家で初めてサンマを食べ、頭から骨ごとバリバリ食べている姿があまりにも美味しそうで、母親に頼んでサンマを買ってきてもらい、自分も頭から丸ごと食べたことからサンマが好きになりました。もちろん、今は、骨も取って食べてますが。

落語にもサンマを題材にした、こんな噺があります。松平出羽守がある時早朝から家来を連れて不動詣りに出かけます。参詣を済ませると出羽守が家来に向かって、「余に遅れぬようについてまいれ」というなりいきなり駆け出す。結構長い時間、昼食もとらずに走り続けたので、出羽守はお腹がすいて仕方がなくなる。その時、近所の農家からサンマを焼く美味しそうな匂いがしてきます。「なんの匂いじゃ」「下々でサンマと申す魚を焼いている匂いです。」「そのサンマを求めてまいれ」家来が譲り受けてきたサンマを食べた殿様は、「これはうまい。下々は大名よりうまいものを食うのか。」と、たいそう気に入ったようで、その2日後、大広間へ集まった大名たちに「サンマを食べたことがあるか」と聞きましたが、誰もサンマを知らない。そこで出羽守は「下々の情を探っておかねばなりませんぞ。」と言ったそうです。それを言われた、黒田筑前守は恥をかかされたと立腹し、家来に「サンマを持ってこい」と命じます。家来はサンマの本場、房州の網元からサンマを取り寄せますが、脂は体に悪い。骨は危ない。とサンマの良いところをすべて取り去ったものを黒田公に出したため、「これはまずい。出羽守はうそを言った。けしからん。」と怒って、殿中にて出羽守にサンマがまずかったことを伝えると、「どこから取り寄せになりました？」と出羽守に聞かれます。黒田公は「房州の網元から」と答えると出羽守は「黒田公、それだからまずい。サンマは目黒に限る！！」(目黒区HPより)

この噺は「目黒のサンマ」と言います。噺家さんによって登場人物やストーリーが多少違いますが、当時の目黒がサンマの産地などということはないのに、殿様がサンマは目黒で獲れるものと思い込んでいるオチは同じで、そこが面白いですね。「目黒のサンマ」「ドカベン」どちらも、安くても味は高級魚以上ということを表しているところは共通しています。サンマという名前の由来は「大きな群れ」を意味する「サワ(沢)」と「魚(マ)」からなる「サワナマ」から、というものと「狭真魚(さまな)」が訛ったという説があるらしいですね。また、EPA、DHA、ビタミンA、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンB2、カルシウム、鉄分という多くの栄養素も含まれており、体にもとても良い食べ物です。2学期は多くの行事があります。体調管理のためにも、そして、3年生の受験勉強にも記憶力や学習能力の向上に役立つDHA・EPAを含んでいる「サンマ」を食べて、2学期を元気に乗り切りましょう！(苦手な方は無理をしないように)